



平成 23 年 2 月 4 日

各 位

上場会社名	朝日工業株式会社
代表者	代表取締役社長 赤松 清茂
(コード番号)	5456)
問合せ先責任者	常務取締役管理本部長 中村 紀之
(TEL	03-3987-2161)

中期経営計画に関するお知らせ

当社は2005年9月の上場以来6年目に入りましたが、今後は、5年を単位期間とする中期経営計画の概要を開示して参りたいと考えております。今回は2011年度～2015年度の中期経営計画の概要をお知らせいたします。

当社は昨年75周年を迎えましたが、今後の経済環境や事業環境の変化は質的にも、そのスピードの面でも、想像を超えたものとなると予想しております。そこで、当社の中期経営計画では、このような激しい変化に対応し、更なるグループの発展を実現させ、隆々として100周年を迎えられることを目標としております。そのために、戦略事業を含む中核事業の質的向上・量的拡大は勿論のこと、注目される農業関連分野や環境関連分野で新規事業開発への取り組みを強化してまいります。

1. 基本方針

当社グループを、これまでの成熟型素材産業グループから、21世紀型先進的環境企業グループに発展拡大させる。

2. 中期経営計画・連結数値目標

(億円、%)

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
売上高	460	510	530	550	600
経常利益	15	30	35	40	45
売上高経常利益率	3.3	5.9	6.6	7.3	7.5

3. 新規事業開発・推進

100周年(2035年)、グループ売上高1,000億円を目指すために、若手社員中心の新規事業開発推進チームを本年4月1日にスタートさせる。

尚、新規事業開発の具体的内容については、それぞれの計画が公表可能な段階まで進んだ時点で、速やかに開示いたします。

4. 重点施策

〔鉄鋼建設資材事業〕

鉄鋼業では高炉業、電炉業を問わず、原料の価格変動リスクが益々増加しております。一方、需要面でも国内需要の回復・拡大スピードは緩やかなものと予想されています。

こうした状況下、当社では、ユーザー・ニーズに対応した、より付加価値の高い鉄鋼製品への戦略的シフトを目指します。

鉄筋では、着実にマーケットが拡大しつつあるねじ鉄筋(「ネジエーコン」)の販売拡大に一層力を入れます。また、より強い鉄筋を目指し、高強度鉄筋にも注力してまいります。加えて、当社の強みである鉄筋フルサイズラインアップを生かした拡販にも努めてまいります。

一方、もう一つの当社の強みである構造用鋼では、より高品質な製品の開発生産にも注力し、販売数量の拡大と、当社鉄鋼部門内での売上比率を伸ばします。

また、従来から工場でのコストダウンプロジェクトを推進してまいりましたが、新規設備導入などで製造ラインの環境も大きく変化いたしましたので、新コストダウン計画を策定・実行し、更に競争力のある工場を目指します。

〔農業資材事業〕

①肥料事業

業界トップの実績を有する有機肥料原料開発力、粒状有機肥料製造技術という当社の強みを最大限に生かして、国際的・戦略的事業規模の拡大を目指します。

特に、今後益々注目される中国などアジア市場には、中・長期的視野で臨んでまいります。

②園芸事業

現在2,000店以上のホームセンターで家庭用園芸肥料を販売していますが、今後更に、販売ネットワークを拡大し3,000店以上の店舗を目指します。

また、製品のラインアップの面でも肥料メーカーの強みを生かし、家庭園芸愛好家のニーズに合わせたアイテム充実を図ってまいります。加えて、ネット販売の拡充にも注力いたします。

③種苗事業

4年前に本格導入した黄化葉巻病に強い大玉トマト「アニモ」は、国内最大のトマト生産地である熊本でも採用され、栽培地域も全国に拡大しております。今後は、更なるマーケットシェアのアップを目指します。

オランダ大手種苗会社との連携を強化し、トマトを含めた、おいしくて、病気に強い野菜品種の開発を進め、国内外マーケットを睨んだ戦略を推進します。

④乾牧草事業

国内牧草マーケットに止まらず、アジアなど国際マーケットもターゲットに、当社豪州合弁企業からの良質な商品供給・販売を目指します。

〔環境ソリューション事業〕

当社グループの農業専門知識を活かした土壌分析・残留農薬分析、自社工場を有するメーカーならではの経験を活用した製造業向け環境分析・工場の環境設計、環境配慮型商品の開発・販売など、収益性の高い、特徴ある環境ビジネスの拡大を目指します。

〔碎石砕砂、マテリアル・リサイクル事業〕

資源保護を念頭に、限られた碎石砕砂資源の有効活用、木くず・コンクリート廃材などのリサイクルを進めてまいります。更には、環境に配慮した新たなマテリアル・リサイクル方法の開発に取り組んでまいります。